

2022.04.01

第48期事業計画書

2022年4月1日～2023年3月31日

東明興業株式会社

経営環境と経営目標（第48期）

2021年も新型コロナウイルス感染症の影響で経済は大きく減速しました。一日も早く治療法が確立し、収まってくれることを望むばかりです。

国は2050年、カーボンニュートラルを実現する為に温室効果ガス（GHG）排出量削減の取り組みの一環として、「プラスチックに係る資源循環促進等に関する法律」を施行しました。

環境省では今までリサイクルの一躍を担っていたサーマルリサイクルをサーマルリカバリー（熱回収）としてリサイクルの概念から外し、よりマテリアル、ケミカルリサイクルへの移行を推進しています。

首都圏の建設業界は大型再開発物件を除いて受注は順調とは言えず、原材料の高騰や働き方改革による人手不足、CO₂削減等課題も山積みとなっています。

今後、コロナ渦の終息による景気の回復に期待するとともに、高度成長期より築50年を超え老朽化した建築物の建替等、需要は増えると言われていています。

一方、処理業界も長引く建設不況による市場の縮小により根拠の無いダンピングや不適正処理が心配されます。又、SDGsの活動、CO₂削減の提案、廃プラスチックのマテリアルリサイクル化、恒久的な人手不足の対応が急務となっています。

このような状況の中、弊社では「第48期事業計画」を策定し、戦略的に遂行して参ります。

品質につきましては、マテリアルリサイクルとして非塩素系軟質プラスチックの分別とフォーミング抑制剤としての塩素系廃プラスチックのケミカルリサイクルに加え、非塩素系軟質プラスチックのフラフ燃料化の製造施設へ大規模改修を実施し廃プラスチックのゼロエミッションを推進して参ります。

環境につきましてはSDGs宣言に基づき、現場に太陽光を電源とした移動式小型自動圧縮機の設置、及びゲート車、コロボックスの運用を行いCO₂排出量削減の提案をして参ります。

又、解体現場及び中間処理工場の重機燃料をGTLに移行する等の具体的な活動を推進して参ります。引き続き、近隣地域に対する粉塵・騒音対策の改善・石綿含有産業廃棄物（レベル3）・水銀使用製品産業廃棄物（蛍光灯）・フロン類等の混入防止を強化します。

東明グループとしての、クリーンエネルギー、太陽光発電や樹木、緑地の維持管理も継続して参ります。

安全につきましては、新型コロナウイルス対策は引き続き継続して強化して参ります。

I S O 45001 の運用、安全基本行動、一声掛け、一人K Y、指差呼称の基本原則を厳守し安全衛生委員会の運営強化、解体現場、重点現場に加え工場パトロールを強化します。

近年火災が多発しているリチウムイオン電池を含む廃電池類の回収システムを構築し火災予防を強化します。

又、法的要求事項のストレスチェックに加え、インシデントアンケートを実施することによりメンタルヘルスケアを充実して参ります。

第 48 期は次世代を担う人材の育成と社員、協力業者の教育、専門業者として特化した技術を長年培ってきたノウハウを活かし、適正で高品質な環境に配慮した安全で信頼されるサービスを提供して参ります。

1. 経営基本方針

“いっしょに守ろう”

きれいな地球・たのしい職場・みんなの利益

- (1)経営の目的・目標(品質評価・環境影響評価・労働安全衛生リスク評価)を戦略的に策定し、コンプライアンス(法令遵守)の厳守と、「品質・環境・安全」の重点事項を実施し、信頼される質の高い経営を実施します。
- (2)適正処理を担保する「産業廃棄物の一連の処理工程」によりすべての情報を開示し石綿含有産業廃棄物、水銀使用製産業廃棄物及び、フロン類の受入検査の徹底、廃プラスチックのマテリアル・ケミカルリサイクルとフラフ燃料化による廃プラスチックのゼロエミッションを推進します。
- (3)近隣地域と調和を図り、工場施設の運用管理を強化し環境負荷を低減します。
SDGs宣言に基づき、温室効果ガス(CO₂)を削減する為、ゲート車・コロBOXとソーラーパネル付小型圧縮機の導入、重機燃料をGTLに移行する等、具体的に実施します。
- (4)安全衛生委員会では、新型コロナウイルス感染症対策の強化、ISO45001の運用、解体現場、重点現場及び工場パトロールの強化、火災予防を目的としたリチウムイオン電池等の回収システムを構築します。
引き続き、インシデントアンケート、ストレスチェックに加えメンタルヘルスケアを実施します。
- (5)新しい時代を担う人材育成と社員、協力業者の教育、専門業者として特化した技術と長年培ってきたノウハウの伝承とモラル、マナー教育並びに社内外の行事を通してコミュニケーションの充実を図ります。

